

雌牛のブーコラ (アイスランド)

昔むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。ふたりには、男の子がひとりありました。

おじいさんとおばあさんは貧しくて、雌牛を一頭かつてはいるだけでした。雌牛の名前は、ブーコラといいました。

あるとき、ブーコラが子牛を生みました。おじいさんとおばあさんは、喜んで、だいじに世話をしました。ところが、とつぜん、だれかがブーコラをさらつていつてしましました。おじいさんとおばあさんはブーコラをさがしましたが、どんなにさがしても見つかりません。そこで、男の子をよんでもいました。

「ブーコラをさがしてきておくれ。見つかるまで帰つてくるんじゃないよ」

男の子は、お弁当と新しくつをもらつて、ブーコラをさがしに出かけました。

男の子は、どこまでもどこまでも歩いていきました。とうとうつかれてしまつて、草の上にすわりこんで、お弁当を食べました。食べおわると、大きな声でよびました。

「おうい、ブーコラ。生きてるんなら、ひと声鳴いてよ」

男の子は元気になつて立ちあがると、また歩いていきました。どこまでもどこまでも歩いていきました。

男の子は元気になつて立ちあがると、また歩いていきました。どこまでもどこまでも歩いていきました。とうとうつかれてしまつて、また草の上にすわりこんで、お弁当を食べました。

食べおわると、もういちどよんでもみました。

「おうい、ブーコラ。生きてるんなら、ひと声鳴いてよ」

すると、さつきよりずっと近くで、「モウ」と鳴き声がしました。

男の子は、また元気になつて歩いていきました。どこまでもどこまでも歩いていくと、大きな岩山の上に出ました。男の子はつかれてしまつて、すわりこんでお弁当を食べました。食べおわると、大きな声でよびました。

「おうい、ブーコラ。生きてるんなら、ひと声鳴いてよ」

すると、岩山のすぐ下で「モウ」と声がしました。

男の子は、大急ぎで岩山を下りていきました。すると、大きな岩あながありました。男の子は、岩あなに入つていきました。どんどんおくへ入つていくと、太い柱があつて、ブーコラがつながっていました。男の子は大喜びしてつなを解くと、ブーコラを引っ張つて岩あなをぬけだし、家に向かいました。

しばらくして、ふりかえつてみると、後ろから、おそらく大きなトロル女が、トロル娘を連れて追いかけてくるのが見えました。トロルたちは足が速くて、たちまち追いついてきました。男の子は、

「ねえ、ブーコラ、どうしたらいい」とたずねました。ブーコラはいいました。

「わたしのしつぽの毛を一本ぬいて、土の上に置きなさい」

男の子が、ブーコラのしつぽの毛を一本ぬいて土の上に置くと、ブーコラはその毛にむかつていいました。

「空を飛ぶ鳥でなければこえられないほどの大きな大きな川になれ」

たちまち、男の子とブーコラの後ろに大きな川が現れました。男の子は、ブーコラを引っ張ってどんどんにげました。

トロル女は、川岸まで来ると、

「こんなもの、平気、平気」といつて、トロル娘にいました。

「家に走つてかえつて、父さんの大きい雄牛を引っ張つといで」

トロル娘は、家に走つてかえつて、とほうもなく大きい雄牛を引っ張つてきました。雄牛は、たちまち、川の水を飲みほしてしまいました。そこで、トロルたちはまた追いかけきました。もう少しで追いつかれそうになつたので、男の子は、

「ねえ、ブーコラ、どうしたらしい」ととききました。

「わたしのしつぽの毛をもう一本ぬいて、土の上に置きなさい」

男の子が、ブーコラのしつぽの毛を一本ぬいて土の上に置くと、ブーコラはいました。

「空を飛ぶ鳥でなければこえられないほどの大きな燃える山になれ」

たちまちふたりの後ろに、大きなたきぎの山ができて、ぼうぼう燃えはじめました。男の子はブーコラを引っぱつてどんどんにげました。

トロルは、燃える山まで来るといいました。

「こんなもの、平気、平気。娘や、家に走つてかえつて、さつきの父さんの雄牛を引っ張つといで」

トロル娘は家に走つてかえつて、さつきの雄牛を連れてきました。雄牛は、さつき飲んだ川の水をぜんぶはきだして、たちまち火を消してしまいました。トロルたちはまた追いかけきました。もう少しで追いつかれそうになつたので、男の子は、

「ねえ、ブーコラ、どうしたらしい」とさけびました。

「わたしのしつぽの毛をもう一本ぬいて、土の上に置きなさい」

男の子が、ブーコラのしつぽの毛を一本ぬいて土の上に置くと、ブーコラはいました。

「空を飛ぶ鳥でなければこえられないほどの高い高い山になれ」

たちまち、ふたりの後ろに、高い山がそびえました。

トロル女は、山のふもとまで来るといいました。

「こんなもの、平気、平気。娘や、家に走つてかえつて、父さんの大きい錐を持つといで」

トロル娘は家に走つてかえつて、大きな錐を持ってきました。トロル女は、その錐でキリキリ、キリキリ、山にあなを開けはじめました。けれども、なかなかあなは開きません。そのまに、男の子とブーコラはどんどんにげました。やつとあなたが開くと、トロルたちは、急いであなたにはいこんで、山を通りぬけようとしました。ところが、あなたがせまいので、なかなか前に進めません。しまいに、進むこともひき返すこともできなくなつてしましました。トロルたちは、いつまでもぐずぐずしているうちに、とうとう石になつてしましました。男の子は、無事、ブーコラを連れて家に帰りました。おじいさんとおばあさんは、大喜びしましたとき。